

2025年度 卒業時調査報告書

作成日: 2026年9月30日 | 作成: IRセンター

1. エグゼクティブサマリー

2025年度卒業時調査（有効回答199件）の結果、本学の教育力の中核は「少人数教育による教員との密接な関係性」と「実習・演習を通じた実践的スキルの獲得」にあることが定量・定性の両面から裏付けられた。学生の進路希望達成度は高く、大学生活全般に対する総合満足度も約9割に達している。

2. 調査概要・作成方針

2025年度における卒業時調査は2026年3月に実施された。

- ・実施時期: 2026年3月
- ・有効回答数: 199件
- ・学科別内訳: 英語学科13、日本文化学科25、音楽学科8、食生活健康学科27、生活デザイン学科39、子ども学科31、看護学科56
- ・自由記述回答: 11項目、総件数356件

表1：自由記述式設問の回答件数

設問番号	設問内容	件数
Q2	上記以外で、大学時代に熱心に取り組んだことがあれば記入してください。	32
Q10	本学の教育課程や教育支援等に対して、ご意見・ご感想等があれば、自由に記入してください。	25
Q12	本学の設備や学生支援制度に対して、ご意見・ご感想等があれば、自由に記入してください。	25
Q16	卒業後の進路決定に関して、ご意見・ご感想等があれば、自由に記入してください。	12

Q21	特に印象に残っている科目について、その理由もあわせて教えてください。	70
Q22	あなたの成長に大きく寄与した教養教育の科目があれば、その理由もあわせて教えてください。	39
Q23	あなたの成長に大きく寄与した専門教育の科目があれば、その理由もあわせて教えてください。	32
Q24	あなたのキャリア選択に大きく寄与した教養教育の科目があれば、その理由もあわせて教えてください。	24
Q25	あなたのキャリア選択に大きく寄与した専門教育の科目があれば、その理由もあわせて教えてください。	23
Q27	本学への進学への推奨に関して、上記のように回答した具体的な理由を教えてください。	58
Q28	その他、本学に対するご意見・ご感想があれば記入してください。	16

3. 大学全体の結果（学修・成長・学習経験）

表2：学修・課外活動への取組度（％）

項目	熱心・やや熱心（％）	経験がない（％）
アルバイト	91.5	1.0
専門科目（座学）	91.0	0.0
専門科目（実技）	89.4	1.5
ゼミ・実習	88.9	2.5
卒業論文・制作等	80.9	10.1
教養教育科目	75.4	0.0
資格取得	73.9	11.1
建学の精神	58.3	2.5
外国語科目	52.3	2.5
ボランティア	36.7	33.7
部活動・サークル	27.6	53.3
外国語習得（自主）	26.6	27.1

表3：能力・知識の変化・成長実感（％）

※80％以上＝達成【✓】、70％～80％＝要観察【△】、70％未満＝課題【×】

能力・知識の項目	肯定回答（％）	評価
専門分野の知識	97.5	✓
一般的な教養	94.0	✓
分析力・問題解決力	93.0	✓
協働能力	93.0	✓
論理的思考力	89.9	✓
コミュニケーション能力	89.9	✓
人間関係構築力	88.4	✓
就職準備度	86.9	✓
コンピュータ操作能力	84.9	✓
時間を効果的に利用する力	84.4	✓
文章表現力	84.4	✓
プレゼンテーション力	84.4	✓
地域問題の理解	82.9	✓
時事問題の理解	77.9	△
リーダーシップ	72.9	△

表4：学習行動の頻度（％）

※「ひんぱんにあった」＋「ときどきあった」の合計

授業経験・学習行動	割合（％）
授業課題のためにWeb上の情報を利用	96.5
学生が自分の考えを発表する機会	95.0
教員に親近感を感じた	70.4
授業課題のために図書館の資料を利用	65.8
大学の教職員に将来のキャリアを相談	62.3
授業の一環でボランティア活動をする	39.7

Q6. 留学経験:「渡航したことはない」が186名（93.5％）を占め、海外経験は限定的である。

4. 大学生活・教育支援・設備満足度

表5：大学生活への適応（％）

項目	割合（％）
他の学生との友情を深める	93.0
時間を効果的に使う	87.4
効果的に学習する技能を修得	84.4
大学が求める水準に応じて学習	83.9
大学教員と顔見知りになる	82.9
大学の学生向けサービスを上手く利用	73.9
大学教員の学問的な期待を理解する	73.4

Q 8 . 学生生活の充実感 — 全体で 95.5% が「充実」と回答						
英語 100.0%	日本文化 100.0%	食生活健康 100.0%	看護 94.6%	子ども 93.5%	生活デザイン 92.3%	音楽 87.5%

表6：教育課程・教育支援への満足度（％）

※80％以上＝達成【✓】、80％未満＝未達【△】

項目	満足度 (%)	評価
学生間交流の機会	83.4	✓
専門必修科目	82.9	✓
専門選択科目	82.9	✓
多様な考えを認める雰囲気	79.9	△
専門教育カリキュラム	79.9	△
ゼミ・演習の教育内容	79.4	△
将来の仕事との関連	77.9	△
教養必修科目	76.9	△
履修人数(クラス規模)	75.9	△
教養選択科目	75.9	△
授業の全体的な質	75.4	△
学年別配当	75.4	△
大学内の一体感	74.9	△
教養カリキュラム	73.9	△
日常生活との関連	73.9	△
教員と話す機会	72.9	△
教育支援全般	71.4	△
学習支援・個別指導	69.8	△
各種資格対策講座	61.8	△
時間割上の授業の配置	57.8	△

表7：設備・学生支援制度への満足度 (%)

項目	満足度 (%)
個人ロッカー・お手洗い	76.9
図書館の蔵書・レファレンス	71.9

実習室・実験室等の設備	69.3
学生食堂・学生ホール等	65.3
就職支援	64.8
教室内の設備	63.8
コンピュータ訓練・サポート	62.3
健康・保健サービス	62.3
インターネットの使いやすさ	60.3

5. 進路・DP・総合満足

表8：就職先選択の重視項目（％）

重視項目	割合（％）	重視項目	割合（％）
安定性	85.4	人材育成・教育支援体制	75.4
職種	83.4	将来性	75.4
業種	81.4	専門分野とのつながり	64.3
福利厚生の充実	81.4	周囲のすすめ・紹介	59.3
勤務地	79.4	離職率	52.3
収入	78.4	知名度	48.2
人間関係のよさ	77.9		

・ Q15 . 進路希望達成度 — 有効回答ベースで **94.1%** が希望を達成（第1希望＋ほぼ希望通り）

音楽

100.0%

看護

98.2%

日本文化

96.0%

子ども

96.0%

英語

92.3%

食生活健康

92.0%

生活デザイン

86.5%

・ Q19. 全学DPの達成自己評価（肯定割合）：

- DP3 職業人としての力: 83.9%
- DP2 人間としての尊厳 / DP4 広い視野に立つ社会人: 81.9%
- DP1 建学の精神の理解: 68.3%（相対的に低い結果）

・ Q20. 本学での経験全般への総合満足度: **89.4%**

6. 学科別の総合満足度

表 9：学科別の総合満足度（全体基準）

学科名	Q 2 0 総合満足度
日本文化学科	96.0%
英語学科	100.0%
生活デザイン	79.5%
看護学科	85.7%
子ども学科	90.3%
食生活健康	100.0%
音楽学科	87.5%

7. 自由記述のテーマ整理

表 1 0：自由記述の主要テーマと学生の受け止め方

テーマ群	性格	代表的な記述内容・主な含意
実習・体験学習	肯定	教育実習、学校訪問実習、卒業研究、演習の充実。実践的な学びの質が本学の強み。
教員との近さ	肯定	先生との距離の近さ、質問のしやすさ、丁寧な個別指導。本学ブランドの核心。
就職・キャリア	両義	親身な支援への感謝がある一方、進路先としての手応えは分野により濃淡があり、本学の強みが際立つ分野の明確化と支援の充実につなげる。
履修・時間割	課題	履修上限（CAP制）の柔軟な運用や制度の見直しを求める声、少人数クラスの開講制限（5人未満で不開講）への不満。特に生活デザイン学科で多く見られた。
学費・経済的支援	課題	看護学科を中心に学費の割高感を感じる学生が一定数見られ、奨学金等の経済的支援策に関する情報発信への要望がうかがわれる。
資格対策講座	課題	TOEICやSPI講座の周知不足、教材の古さ、利便性の欠如。
施設・ICT環境	課題	Wi-Fiをはじめとする設備環境への改善要望があり、伝統的な建物の維持保存に加え、施設設備の計画的な更新の継続が求められる。

8. 総括

2025年度の卒業時調査結果は、本学の最大の強みが「教員の熱意と少人数による密接な指導」であり、これが学生の高い充実感と希望進路の達成に直結していることを示している。一方で、学修成果等に対する満足度に比べ、後輩や外部への積極的な推奨行動（推奨度）については、向上の余地が見られる（進学推奨度66.0%と総合満足度89.4%との乖離は約23pt。前年度との差+2.7ptは統計的に有意ではない）。

9 . 【追記】 2 か年比較分析（2024年度→2025年度）

追記日: 2026年9月28日 | 本節は本体（2025年度 卒業時調査報告書 最終改訂版）発行後に追記したものである。

【本節の位置づけ】本節は、2024年度調査を2025年度と同一の基準（項目ごとの有効回答ベース）で再集計し、2か年比較として整理したものである。

9 . 1 全体総括

本学での学生生活全般に対する総合満足度は、2024年度の90.3%から2025年度は89.4%（▲0.9pt）であり、2標本の比率の差の検定（z検定・両側）では有意差は認められなかった（ $p=0.78$ 、有意水準5%）。このことから、約9割という高水準が安定的に維持されていると評価できる。学生生活の充実感とあわせて、本学教育に対する評価の安定性が確認された。

課題領域では、前年度に不満が集中した「インターネット（Wi-Fi）の使いやすさ」（52.4%→60.3%、+7.9pt）と「時間割上の授業の配置」（51.9%→57.8%、+5.9pt）みられ、過年度からの環境投資の成果が数値に反映され始めた。一方で「各種資格講座」（65.0%→61.8%、▲3.2pt）と「就職支援」（64.6%→61.7%、▲2.9pt）は微減ハード面に加えソフト・制度面での継続的な手当が求められる。

9 . 2 重点論点

（1）教育成果と大学満足度：強みの安定的な維持

- 総合満足度は89.4%（▲0.9pt。z検定（両側）で $p=0.78$ と有意差なし）。約9割の学生が満足して卒業する本学教育の強みが安定的に維持されている。
- 「図書館の設備・サービス」74.6%（▲1.6pt）は主要設備・サービス項目中で唯一の70%超であり、良好な水準を維持している。

表 1 1：主要指標の2か年比較（項目ごとの有効回答ベース・両年度同一基準）

評価指標	2024年度	2025年度	差分	評価・推移
総合満足度（Q20）	90.3%	89.4%	▲0.9pt	高水準（約9割）を安定維持
インターネットの使いやすさ	52.4%	60.3%	+7.9pt	改善の兆し（重点論点の成果が顕在化）
時間割上の授業の配置	51.9%	57.8%	+5.9pt	改善傾向（着実に上昇）
各種資格講座・試験対策講座	65.0%	61.8%	▲3.2pt	微減（今後の取り組み強化の余地あり）
就職支援（キャリア）	64.6%	61.7%	▲2.9pt	6割台で安定的に推移（支援の質の向上を継続）
図書館の設備・サービス	76.2%	74.6%	▲1.6pt	良好水準（70%超）を維持

※ 本表は両年度とも「無回答」を除外した項目ごとの有効回答数を分母として再集計した値であり、本節を通じて同一基準で統一している。

9.3 学科別の動向（総合満足度）

- **満足度100%到達**：英語学科・食生活健康学科が2025年度に100.0%を達成した。
- **大幅な改善**：子ども学科+23.6pt（66.7%→90.3%）、食生活健康学科+12.5pt、英語学科+11.1pt。改善要因を検証し、学内で共有する。

※ 本節の数値は、無回答を除外した項目ごとの有効回答数を分母としており、本節を通じて同一基準で統一している。統計的検定は2標本の比率の差の検定（z検定・両側、有意水準5%）により実施した。